

Come ride with us.  **HONDA**

TRANSALP

新登場 トランザルプ

400V



BIKE NATURALIST

河原・森・山・川には必ずしも自然が豊かではありません。
自然環境、生物多様性に
配慮を心がけてください。

ジャパン・ツアー

久しぶりの遠出をした。クルマでも列車でもない、モーターサイクルの旅。片道300kmほどの距離が快適なステージに生まれ変わる。トランザルプが、私たち二人をどう楽しませてくれるのか。それが、この旅の目的でもあった。オートルートやアウトバーンをはじめ、コーナーが続くアルプスの山々で鍛えられた、安定感の高い走り。タンデムシートに跨がり、ロングディスタンスで乗り込むほどに、自然に彼の魅力が分かってきたように思えてくる。さまざまなモノが溢れるなか、主張をもち続け、いつまでも魅力を失わずにいられる大人のモーターサイクル。それが、日本を狭くするあたらしい旅人、トランザルプ400V。目的地に着くまでのもうひとつの満ち足りた旅に、ツアーたちの胸は高鳴る、そして躍る。



Echizen-Kagami National Park

C. Echizenmisaki

FUKU

Sabae Takefu

Tsuruga Bay

Sekigahara

GIFU

Ono

Gero Spa

Nakatsugawa

Endo

Gorge

Minobu

Okutomo

Osaki

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU

Maebashi

Isesaki

Utsunomiya

Yamanashi

KOFU



日本で生まれ、ヨーロッパで育った、Vツインデュアルパーパス。
 トランザルプ400Vが、あなたの旅のパフォーマンスをあたらしく変えていきます。

クラスを超えたゆとりの風格を演出。

ツアラーにやさしい先進のエアロスーツ。

もっと速く、気の向くままに走り続けたい気分になさしてくれるのが、トランザルプの流麗なスタイリングです。オン・オフを問わずに、どの道でも走破するツアラー優先の思想は、優れた居住性や操縦安定性を生み出しています。フロントカウルから、容量18ℓの大型フェューエルタンク、そしてリアへ流れるスムーズで斬新なボディライン。ウィンドプロテクション効果を綿密に計算し、細部にわたり形造られたボディマウントフェアリング。高さ・形状・角度などを十分に考慮したフロントスクリーンや、フェアリングと一体設計された

大型のアンダーカバーと相まって、風圧に抵抗する必要もなく、爽快な走りを感じさせるナチュラルな風をライダーに送り届けます。

また、ラジエーターからの熱風は、フェアリング横の左右ダクトよりライダー前方から後方へと排出され、カウルの内側に熱気がこもらない設計としました。優れたエアマネジメントから生まれる、フロントスクリーン、サイドカバー、リアフェンダーまでにいたるトランザルプのその美しいスタイリングは、まさに大自然の中を走り抜けるための、ツアラー必須のエアロスーツ。快適なオープンエアクルージングをきっとあなたに堪能させてくれることでしょう。

ツアラーの右手にリアルに反応するトルク特性。

水冷4サイクル52度VツインOHCエンジン。

都会を離れ、ハンドルを山へ向ける。トランザルプと出かける道はいつしか市街地から、ワインディングロードへと。さらに山路へと変化していきます。このように日本での使い勝手、つまり街乗りから高速道路を走るツーリングユースを考えた結果、トランザルプのパワーユニットには、400ccの52度Vツインが選ばれました。このシリンダー挟角を52度とする水冷4サイクルVツインOHCエンジンは、ホンダ独創の位相クランクによって、ライダーの感性をノックする鼓動を残しながらも、理論上の1次振動をゼロとしています。長時間の高速ツーリングにおいて、不快な振動がツアラーの疲労の直接原因になっていることを考えれば、このエンジン特性でもトランザルプのマシンの性格が明確にお分かりいただけること



でしょう。また、発進にはほとんどと言っていいほど神経を使わずに済むのがトランザルプの魅力です。シングルでも、タンデムでも、少しのアクセルワークだけで400ccのVツインが、まるで生き物のように車体をグイグイと前へ押し出します。加えて、大容量のエアクリーナーからφ34mmのスラントタイプのキャブレターを介して、混合気はダイナミックに送り込まれるため、鋭くスムーズに吹けあがるエンジンレスポンスと、低・中速域での太いトルクレスポンスを実現。5段ミッション中の3速ですべての道をクリアできるほどのゆとりあるオートマチック感覚のライディングを楽しめます。冷却システムには、大容量で軽量のアルミ製デュアルラジエーターを採用。右側のラジエーターには、サーモスイッチ制御電動ファンを内蔵し、渋滞時などの低速ライディング時にもVツインのパワーユニットをクールに安定させる役目を果たしています。



なにも走り続けることだけが、モーターサイクルの得意科目ではない。
 トランザルプに跨がって進出をすると、行く先で大自然と接する機会が、クルマの2倍はあるような気がしてくる。



まっすぐ空へ向かって伸びる道や、草原が広がる台地を抜ける道。同じアスファルト道なのに、都会とは道の表情はなぜか違って見える。お気に入りの道をコレクションし、日本各地に書き込んでいくという行為はどうだろうか。



道が舞ふ。日常が右に左に傾きながら、頭の中から流れ去っていく。

あらゆる走行シーンで余裕ある走りを実現。

ツアラーのためのしなやかなフレーム&足まわり。

ハイスピードクルージング時の直進安定性の確保や、オフロードに乗り込んだ時の操縦安定性に、軽量・高剛性フレームの存在は欠かせません。トランザルプでは、セミダブルクレードル型のフレームを採用。太く頼もしい骨格が、Vツインのパワーユニットをしっかりと抱え込み、高速道路やオフロードに乗り出した時でも、常に安定したハンドリング特性を発揮します。リアサスペンションは、60mm幅の角型スイングアームのピボットとリアハンガーを同軸化し、ピボット部には動きを滑らかにするニードルベアリングを使用。定評あるプロリンクと相まって、



ストローク量190mmを誇る素晴らしい乗り心地を確保しています。また、フロントフォークには剛性の高い $\phi 41$ mmのインナーチューブを内蔵。200mmのストローク量と共に、様々な悪路をしなやかに受けとめる柔軟なフットワークを獲得しました。また、フロントの剛性をより一層高めるため、フロントフェンダー一体式のスタビライザーを装備しています。ブレーキは、フロントに $\phi 276$ mmの多孔式ディスクプレートとセミメタルパッドを使用したデュアルピストンキャリパーを装着。リアにも、強力かつコンパクトなシングルディスクを装着しました。アスファルトからダートまで、あらゆる路面状況において優れた制動力を発揮する扱いやすいブレーキに仕上がっています。

快適クルージングを強力にサポート。

本場ヨーロッパで熟成度を増した装備群。

●水温計をはじめ、電気式タコメーターやワンタッチトリップメーターを備えた2連メーターパネル ●始動性に優れたセルフスターター式 ●フェアリングに組み込まれた、60/55Wの常時点灯式ハロゲンヘッドライト ●雨、風などからグリップ回りを保護するナックルガード ●強度と弾性を両立、TLスポーク ●路面の状況に応じて確かなロードホールディング性を発揮する、フロント21/リア17インチタイヤ ●フェアリングと一体設計になった、ポリプロピレン製の軽量・大型アンダーカバー ●アルミ製ブラケットと耐久性に優れた樹脂で構成された



大型リアキャリア ●チカラ強くVツインの存在感をアピールする、右側2本出しのステンレス巻エグゼーストパイプ ●フェアリング内に組み込まれた、使いやすい大型フューエルコック ●常時点灯式ポジションランプ兼用のフロントウィンカー & 被視認性の高い大型テールライト ●タンデムツーリングに便利、フレームマウントタイプのピリオンステップ ●パッセンジャーも非常に快適な幅広タンデムシート ●サイドスタンドのしまい忘れを表示する警告灯を装備 ●ライダーの好みに合わせてステップラバーが取り外せる、ボルトオンマウントのフットレストなど。贅沢な各種の装備群がトランザルプの風格をさらに高めています。



山間を縫う林道を走ったあとは、トランザルプもライダーも暫しのくつろぎが必要になる。木の香りとコーヒーの匂いに身をゆだね、午後のルートを眺めてみる。

本格的なログハウスを見つけ、旅の質を高めるのも良いアイデア。ほんの一時の出遣いでも、きっと心に残るものだ。



自然の静寂を感ぜない。これもモーターサイクルのひとつのルールだ。



私たちの旅に終わりはないが、とりあえず今回の旅を終らせよう。都会では決して見ることのできない四季の表情、そして数々のドラマ。トランザルプと一緒に大自然の色に染まってみる旅は、まだまだ始まったばかりだ。

